

## 2013年 年頭ご挨拶

日本製薬工業協会 会長 手代木 功

新年明けましておめでとうございます。  
2013年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

昨年は世界的な不景気の中、新興諸国を含めた経済の停滞が顕著に見られ始め、わが国においては東日本大震災からの復興の遅れ、円高のさらなる進展、周辺諸国との関係悪化など、日本の将来に向けての不安定要素が一挙に顕在化した1年でした。製薬業界においても、4月に行われた薬価改定に加えて、いっそうの医療費削減を指向したさまざまな議論が行われており、業界をとりまく環境は厳しさを増しております。

このような中、7月に策定された日本再生戦略において医薬品を将来の基幹産業のひとつとして育成する方針が示されました。山中伸弥・京都大学教授のノーベル賞受賞も相まって、日本のライフサイエンス産業に対する期待は着実に高まっており、医薬品産業としてその期待に応えていかなければなりません。

今年、製薬協が取り組むべき課題から、特に注力すべきものについて3点述べさせていただきます。まずは『コンプライアンスの徹底』に関してです。昨年9月に医療用医薬品プロモーションコードを改定し、今年「コード・オブ・プラクティス」の策定・実施に向けて検討を重ねております。会員各社は、その活動すべてにおいて、より高い倫理性と透明性を担保するとともに、国民の皆様からいっそうの理解を得られるようコンプライアンス体制の強化を推進することがますます重要になってまいります。

次に『産業振興策の充実』が挙げられます。革新的新薬を継続して創出するため、研究開発から実用化までをオール・ジャパンで推進することが喫緊の課題となっています。昨年、医療イノベーション5ヵ年戦略に基づき、アカデミアに眠る有望な創薬シーズ



を実用化へ導くための「創薬支援ネットワーク」の構築が開始されました。今後もその実現に向けて積極的にかかわってまいります。また「新薬創出加算の恒久化」と「研究開発費の税額控除拡大」についても、これまで以上に強い姿勢で取り組んでまいります。

最後に『国際連携、国際協力の推進』があります。昨年、世界有数の新薬創出国である日本の責務として「グローバルヘルスに関する優先課題と活動」を発表いたしました。世界における保健医療の改善に貢献していくため、さまざまなステークホルダーとネットワークを構築し課題解決に取り組んでまいります。またアジアにおいても、規制・許認可と新薬創出の両面でイニシアチブを発揮すべく、4月に第2回アジア製薬団体連携会議を主催する予定です。

課題は多岐にわたっておりますが、今年を製薬業界にとって実り多い1年とするべく全力を尽くしてまいりますので、皆様のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。